Information

花とみどり

埼玉県のマスコット「コバトン」

Vol.71
2018.2.16

園内の風景

センターでは新しい分類※による
樹名板改修プロジェクトに取り組み、
来園者の皆様の学習の場、
憩いの場として、一層の見本園機能の
充実を図っています。

安行中生徒の皆さんによる手作り看板（正門）

サクラ「宝珠」

安行中生徒の皆さんによる手作り看板（東門入口）

※サクラを始めとする春の花々の美しさは変わりませんが、分類法は変化しています。最新の研究に基づいた分類方法（ＡＰＧ）では、サクラとウメは異なる属に分類されることになりました（３ページ参照）。

彩の国
埼玉県花と緑の振興センター

所長あいさつ

「埼玉から全国に」

【植木生産の始まりは江戸時代】

川口の植木生産は、江戸時代、赤山に居城を構えていた伊奈氏により始まったと言われています。関東ローム層の起伏に富んだ地形を活かし、当時から多彩な品目が栽培されていました。特に、明暦の大火(1657年)の際、植木や萱などの資材を運び江戸の復興に貢献したこと、また、当時の自然樹形より、植木屋が仕立てた造形樹が大あたりしたことから、大消費地江戸(東京)の植木ストックヤード・産地として、川口市安行を中心に、さいたま市東部にかけて大きく発展していきました。その後、県内の各地域でも植木生産が盛んに行われるようになりました。根回し・根巻き・枝折り・吹かしなどの伝統技術は、現在も脈々と受け継がれています。大火復興時、中心的役割を担ったと伝えられる吉田権之丞翁の墓が金剛寺にあり、今でも地域に語り継がれ、親しまれています。

【安行全員参加！　緑で街興し】

当地にあって、花と緑の振興センターが地元に働きかけを行ったことがきっかけで、平成22年秋、「安行オープンガーデン」がスタートしました(現在は川口市造園業協会が事務局)。これは、植木産地の特色を活かした植木造園事業者の生産現場やモデル庭園を見学できる取組です。現在は、周辺スイーツ喫茶なども含め、40を超える事業者が参加しています。春・秋の年2回開催されるオープンガーデンデイでは、地元中学生が手作り看板で迎えたり、野点で持て成したりと、緑化産業振興と街興しが一体となった取組に発展しています。当センター近隣には、川口市が首都高初のハイウェイオアシス「赤山歴史自然公園(イイナパーク川口)」を建設予定(平成30年に施設の一部がオープン)で、イイナパーク→当センター→川口緑化センター(樹里安)のルートを、オープンガーデンや地域に点在する名勝で結び、全国に発信する安行全員参加の街興しに繋げていきたいと考えています。

▲手作り看板作成の様子
(安行中学校)

安行東中学校茶華道部▶
による野点（好樹園）

生産者紹介

株式会社　好樹園（こうじゅえん）

代表取締役社長
中田 晋一 氏

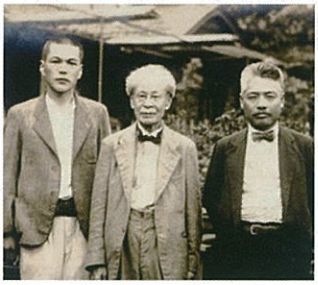
川口市安行の地名の由来となった人物ゆかりの老舗である株式会社好樹園を経営し、「安行オープンガーデン」などで地域をけん引しています。

中田晋一氏

経営の特徴

好樹園は、江戸時代後期、現在の地で創業しました。かつては、虎斑松などの斑入りや枝垂れなどの生産を得意とし、変わりものなら好樹園、とうたわれ、日本植物学の父牧野富太郎博士、明治神宮の森づくりに携わった造園家上原敬二博士らとの親交も深かった老舗です。珍しい植物の導入にも熱心で、庭のシンボルとなっているメタセコイアは、この種が日本に導入されて間もない昭和29年、当センターと同時に植栽されました。

現在は造園業を主とし、従業員には、造園技能士や街路樹剪定士などの資格を取得させるなど、担い手育成に熱心で積極的な業務展開をしています。ここ数年は、当センター主催の造園技術講習会にもご参加いただき、毎年造園技能士合格者が誕生しています。



晋一氏の祖父（左）と▲
牧野富太郎博士（中央）

安行と好樹園

安行の地名は、この地を治めた「中田 安齊入道安行(なかだ あんさいにゅうどうやすゆき」に由来し、中田晋一氏もゆかりの家系です。それだけに、地域に対する思い入れは深く、安行の植木・造園業者の庭などを一般公開する「安行オープンガーデン」を主催する川口市造園業協会の担当理事を務めています。

安行オープンガーデンは、平成22年秋から始まり、現在40社余りが参加しています。ガーデンのつながりの輪は、植木・造園業者にとどまらず、好樹園で実施される安行東中学校の生徒による野点のお持て成しや、安行中学校の生徒による看板製作(表紙参照)など、地元中学校にも広がり、緑化振興と街興しが一体となった取組に発展しています。こうした縁がきっかけで、近々、地区内の公園トイレを中学生の絵で飾る取組も実施されます。

リピーターにも新しい来園者にも楽しんでもらえるよう、継続性を第一に、植木の郷「安行」の発展に取り組んでいきたいとの熱意が伝わってきました。

Topics プランターとはちょっと違う？
～新しい植栽容器を開発しました～

当センターでは、人工地盤をより低コストで簡易に植木で緑化するための新しい「植木植栽容器」を開発しました。市販のプランターの多くは草花を植えるために設計されていますが、この容器は植木を植えることを第一に考えて開発しました。風で倒れにくく、内部には根域を制限するための部品が内蔵され、根が伸びて安定するまでは縄で結んでおくためのフックが設置されています。この容器は平成29年３月に特許を出願し、現在、商品化に向けて準備を進めています。

容器にオタフクナンテンを植栽した様子▶

遺伝情報の分析技術が進歩
～ＡＰＧ分類体系による樹名板の表記を更新しています～

当センターには、約500種類･2,000品種の植物が植えられていますが、見本園としてその役割を十分に発揮するためには、各植物の名前が一目でわかることが大切です。近年、遺伝情報の分析技術が進歩し、この情報の違いにより植物の分類を考えるAPG（Angiosperm Phylogeny Group）分類体系が確立されつつあります。センターでは、平成27年から樹名板の改修の際に、基本的にはAPG分類体系による植物名を表記し、エングラー体系も併せて表記しています。

APG分類と従来の分類（エングラー体系）との違いで、特に、私たちが日ごろ親しんでいる身近な植物２つについて説明します。

▲変更後のサクラ属・カエデ属の表示

❶旧サクラ属（*Prunus*）の細分化

従来のサクラの仲間は、サクラ、ウメ、モモ、スモモはすべてサクラ属（*Prunus*属）という1つの仲間に分類されていましたが、APG分類では、サクラ属（*Cerasus*属）、アンズ属（*Armeniaca*属）、モモ属（*Amygdalus*属）、スモモ属（*Prunus*属）などに細分化されています。

❷カエデの仲間（*Acer*属）の科の変更

イロハモミジやイタヤカエデなどのカエデの仲間は、従来カエデ科と分類されていましたが、DNA分析結果からムクロジの仲間と近縁であることがわかり、ムクロジ科（Sapindaceae）に分類されました。トチノキの仲間もムクロジ科に分類されています。

当センターは、新しい分類体系にいち早く着手し、将来に役立つ情報提供する植物園として、その機能をますます充実させています。

緑のコラム 歓迎！小学校社会科見学

ラクウショウの木の前で説明を聞く小学生

当センターの園内は約2,000品種･約4,600本の植木類を展示し、お客様に年間を通じて緑に親しみ学んでいただく場を提供しています。

団体で来園する方も少なくありませんが、地元川口市内の小学３年生の社会科見学が最も多く、昨年度は14校、約1,300人の児童･先生にご来園いただきました。歴史ある川口市の植木産業を学んでいただくとともに、四季折々の花と緑に親しんでいただこうと、小学校の見学を積極的に受入れています。児童には、安行植木産地の始まりや発展した理由などを説明した後、クラスごとに園内の見どころを案内します。芝生でお弁当をひろげる小学校もあり、子供たちの笑顔と歓声が園内に響きます。

次代を担う子供たちをはじめ県民の皆様に、園内見学を通じ花と緑に親しんでいただきたいと考えています。ご来園心よりお待ちしています。

見学後、おそわったことを熱心にメモしていました

盆栽類の輸出拡大に向けて ～生産性向上のための検証～

植木類の輸出拡大のためには需要期に合わせた効率的な生産が重要です。国内有数の盆栽輸出県である本県の主要品目のひとつシンパクは挿し木で繁殖させますが、発根率が低く、挿し木から鉢上げまで約２年かかるなど、発根率向上と育苗期間短縮が生産性向上の課題となっています。

シンパク挿し木の様子

そこで近縁樹種のヒノキで用いられる技術を参考に、発根率の向上と育苗期間の短縮を検証するため、平成29年度「国産花きイノベーション推進事業」（事業主体　さいたまの花普及促進協議会）に取り組んでいます。盆栽生産者ほ場に設置したビニルハウス内でミスト潅水設備と温床線設置による効果の検討を行うとともに、挿し穂長の違いによる発根率と発根後の生存率を検討、早期出荷に向けた生産性向上の効果を検証しています。

園内の植栽樹木の紹介⑤
ー（ウメ）ー

当センターでは、西園北側約4,000㎡を中心に、283本155品種の梅を植栽しています。品種数は関東屈指で、早い品種は12月末頃から、晩生の品種は桜の開花時期頃までと、長い間楽しむことができます。また、一重の清楚なものから、八重の華やかなものまでバリエーションに富んでいます。

品種「思いのまま」は、一本の枝に白花と紅花が咲き分けます。「茶筅梅（ちゃせんばい）」は、花弁が退化し、雄しべ雌しべが茶筅のように見えることから名づけられたとされている品種です。「夫婦枝垂」は、一つの花に雌しべが２本付くため、実がふたつくっついて並ぶことから「夫婦」とつけられたと言われていて、ハート形の実が訪れる人を楽しませています。

ウメ「思いのまま」

ウメ「茶筅梅」

ウメ「夫婦枝垂」の実

造園技術研修会を開催しました

７月下旬～８月下旬、造園技術研修会を開催しました。今年度は、農業高校の生徒や造園会社新入社員などの３級受検者にも門戸を広げ、造園技能士（厚生労働省による国家認定資格）１級・２級・３級を受検する研修生計10名が資格取得を目指し、暑い中、全８日間の研修に取り組み（写真左）、今年は９名の合格者を出すことができました。今後も本資格取得を通じて、より多くの担い手を育成していきたいと考えています。また今回、合格した研修生のうち、３級を受検した小名木忠夫さんが、技能検定実技試験と兼ねて実施される埼玉県技能競技大会成績優秀者として、11月30日、埼玉会館で表彰されました（写真右）。

造園技術研修会の様子

入賞した小名木氏

花植木専門研修を開催しています

当センターでは、造園技術研修会以外にも、各種研修会・講習会を実施しています。花植木の生産者を対象に実施しているのが「花植木専門研修」です。毎年、その年の旬なテーマで開催しています。写真（右）は「快適な微気候の形成に配慮した植物の活用法」、株式会社ミサワホーム総合研究所主任研究員平山由佳里氏による講演の様子です。

他に（公財）川口緑化センターと共催で、接ぎ木などの伝統的な技術を習得する研修も行っています。開催は生産者団体や関係機関に事前にお知らせしているほか、センターホームページでもお知らせしています。ぜひご参加ください。

接ぎ木技術研修会の様子

花植木専門研修の様子

Information
花とみどり
平成30年2月16日発行

発行所／埼玉県花と緑の振興センター
発行人／埼玉県花と緑の振興センター　所長　落合 正宏

TEL：048-295-1806　FAX：048-290-1012
HP　http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html
E-mail　h951806@pref.saitama.lg.jp

環境にやさしいベジタブルインクと、再生紙を使用しています。